オーディオ論壇収載

オーディオにおけるコンプレックス

20 世紀終末に「ディジタルはアナログを超えられるか？」という命題を掲げて論陣を張った著名オーディオ技術者がいましたが、この命題は、現在でもその意義は残っているように思われます。
このことは、常に念頭において取り組んできましたが、ずっと答えは「否」でした。しかし、このところ、変化が見えてきましたので、限られた経験の範囲内で以下に経過を述べてみます。
まず、アナログとディジタルの比較における EMT981 の CD プレイヤーによる CD 再生ですが、GPS クロックを入れ、仮想アースを接続し、EMT981 をバランスアナログの引き出しにして、XLR リベラメンテおよびバランスアナログアキュライザーを加え、トレイに CD アンチスタティックを貼りますと、CD なりの良さも引き出され、さほどアナログへのコンプレックスを感じなくなりました。
SACD もバランス引き出しにして、トレイに CD アンチスタティックを貼っていますが、かなりの改善が見られたものの、マランツの SACD/CD プレイヤーの実力からして EMT981 のレベルには達していません。それゆえ SACD 音源はさほど多くは保有していません。
配信音源は、ベルリンフィルディジタルコンサートホールを始めた頃は、アナログはおろかディジタルの中でも劣等生で、コンプレックスに苛まれ、何度かあきらめかけたこともありました。しかしながら、仮想アースの導入に始まり、ルーター、スイッチングハブの見直しや LAN ケーブルなどにも LAN アキュライザーのようなもので種々手を加え、ディジタル劣等生の汚名を何とか脱却し、STAGE+による各地の音楽祭など最新のライブ収録ものの配信などは、アナログや CD にもないような世界を切り開いてくれるようになりました。
MQA-CD は、仲間内でも毀誉褒貶が激しく、ハイレゾ的 CD という看板の割には、現在までのシステムでは真価を発揮してこず、言わば、泡沫音源のような印象で、盤の購入も 2018 年と 2019 年以降途絶えていました。今回、トレイに CD アンチスタティックを貼った HFAD10-UBX 導入により MQA-CD の世界にも明るい兆しが見えてきました。2019 年以降も魅力的な MQA-CD の発売があるようなので、今一度取り組んでみる意欲をそそられています。

MQA-CD リスト 1
MQA-CD リスト 2
MQA-CD リスト 3

DVD への取り組むは 20 年を超え、最初は PC による再生、次にマランツのユニヴァ―サルプレイヤー、そして PANASONIC のブルーレイレコーダーと変遷してきました。今回、トレイに CD アンチスタティックを貼った HFAD10-UBX 導入により DVD 再生にも明るさが出てきました。1990 年代の終わりから 2000 年代の初めにヨーロッパの UNITEL や ARTHAUS などのソフトメーカーが収録した DVD 音源は今聴いても素晴らしい出来です。現在はライブ配信に取って代わられていますので、買いだめしてきたものを聴き直していきます。
ハイレゾ DSD ファイル音源も鳴り物入りで登場したものですが、いっときステレオサウンド社や e-onkyo の 11.2MHzDSD 音源を購入してみましたが、その後は、よいコンテンツの音源の提供も見つからず途絶えています。今回、HFAD10-UBX 導入により、その USB ハブ機能を利用して、汎用 USB ハブや付属 USB ケーブルを経由しない再生が可能となり、音質の向上が見られました。
BD 音源も鳴り物入りで登場したものですが、再生環境が PANASONIC のブルーレイレコーダーに限られ、ソフトの発売も限らることから格段の魅力を感じないまま推移しています。今回、HFAD10-UBX 導入により、BD の再生も無料再生ソフトのインンストールにより可能であることを確認できましたので、本格的な再生ソフトの導入を検討課題としています。
最初の「ディジタルはアナログを超えられるか？」という命題に戻りますが、事情が大きく変わってきています。この命題が掲げられた時点では、ディジタルは CD がメインで、DAT や DCC はそれほど普及していませんでした。その後、SACD や DVD ビデオ、DVD オーディオからファイル音源の PC オーディオやネットワークオーディオ、そして配信音源と多様化してきました。
それ故、アナログと対比させるディジタルは何かということになります。例えば DVD や BD や配信の一部は、映像を伴いますので、アナログと同じ土俵と言うわけにはいかない側面があります。
また、配信では最新の音源がライブ配信されていますし、場合によってはリアルタイム配信という同時性が確保されますので、アナログやその他のディジタルの多くとは比較できない側面があります。
なお、アナログもダイレクトカッティングの 45 回転盤など、高音質化の試みがありますが、供給が限定され、価格が一桁あがるなどの問題があります。
そういうわけで、単純な比較は難しく、ディジタルはそれぞれのジャンルの特性を生かした再生を行いながら、評価していく必要があります。
また、アナログもディジタルもパッケージメデイアの供給は潤沢ではなくなっており、コスト面でも配信が有利となっています。
現在のところ、アナログは過去の遺産を活かし、ディジタルは技術の進展と低

コスト化を期待することが有益な方向かと感じています。

以上